北広島市立大曲小学校

指定年度：H25～
児 童 数：470 名

1　包括的な学校改善に向けた取組の概要

○　全教職員による課題の明確化や改善策の決定及び日常実践に直結する校内研修の促進に課題があったことから、以下の取組を重点的に進めた。

①　教育理念や経営方針の浸透

○　教職員や保護者、地域住民との目標の共有化

・グランドデザイン等による目指す子ども像と身に付けさせる資質・能力の共有

・コミュニティ・スクールにおける熟議を通した目指す子ども像及び学校経営方針等に対する保護者・地域の理解の深化

・学校教育目標の達成に向けた全教職員の共通理解を図った取組の推進

【学校経営ビジョン】

②　協働意識の高揚

○　校務分掌を工夫した組織体制の確立

・学校課題の解決に向けた分掌間連携を図るため、ミドルリーダーを中核とした校務運営委員会の機能向上及び分掌業務の精選

・分掌ごとに最重要課題を設定し、学力向上や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の構築、基本的な生活習慣の確立などに向けた具体的な取組の実施

③　教職員間のコミュニケーションの円滑化

○　温かい人間関係を基盤とした職員室づくり

・定期的な情報交換と日常的な対話を通した課題意識や悩みの共有及び協働による課題の解決

・教職員間の報告・連絡・相談の促進

④　人材育成の促進

○　教員の経験年数に応じた育成計画

・年間を通じた校長と教頭の面談によるキャリアプラン及び校長採用を見据えた職能の共有

・メンターチームや学年ブロック毎の研修を実施し、具体的な授業実践について研鑽

【人材育成】

2　取組の成果と課題　（□：成果　■：課題）

□校務分掌を再編し、ミドルリーダーを中核とした校務運営委員会を組織したことにより、リーダー層が学校改善プランの内容について理解し、共有したことで、目指す子ども像の実現に向けた取組を推進することができた。

□全国学力・学習状況調査の児童質問紙において、「自分の考えを発表する機会が与えられていた」と回答した児童の割合が約９割であったことから、全ての学級において日常の授業改善を推進することができた。

■児童の基本的な生活習慣の確立に向けた取組を進めたことにより、児童の学習環境が整備されてきたことから、今後は、学校評価等による成果と課題を基に、児童の主体的な学びにつながるよう、分掌間で連携した取組を推進する必要がある。

■中１ギャップの解消に向けて、検証に係る指標を設定する必要がある。

【目指す子ども像】